

平成26年産水稻の8月15日現在における作柄概況（徳島県）

水稻の作柄概況の発表は、出穂・開花が終わったほ場において穂数、もみ数等の調査が可能となった時期以降に行うこととしている。
このことから、8月15日現在の調査結果については、早期栽培は10a当たり予想収量等を、普通栽培は生育の良否を掲載している。

【調査結果の概要】

8月15日現在における水稻の早期栽培の作柄は、10a当たり予想収量452kg（作況指数98）が見込まれる。

また、普通栽培の生育は、「平年並み」で推移している。

表1 早期栽培の10a当たり予想収量等

区 分	10 a 当 たり 予 想 収 量 ①	10 a 当 たり 平 年 収 量 ②	（ 参 考 ）		
			予 想 収 穫 量 ③=①×④	作 付 面 積 (子実用、見込み) ④	作 況 指 数 ⑤=①/②
県 計	kg 452	kg 463	t 23,500	ha 5,200	98
北 部	463	466	…	…	99
南 部	447	462	…	…	97

注：1 作付面積（子実用、見込み）については、関係機関等からの情報収集により把握した現時点での見込みの面積（参考値）であり、今後変動する可能性がある。
なお、作付面積（子実用、見込み）は、現時点で地帯別に取りまとめていないことから、地帯別は「…」で示している。

2 北部、南部の区分については、「調査の概要」（P5）を参照。

◎ <参考> 徳島県の早期栽培累年データ（子実用）

区 分	作 付 面 積 (子実用) ha	10 a 当 たり 収 量 kg	収 穫 量 (子実用) t	10 a 当 たり 平 年 収 量 kg	作 況 指 数
平成16年産	5,170	460	23,800	465	99
17	5,290	480	25,400	463	104
18	5,290	440	23,300	463	95
19	5,260	445	23,400	463	96
20	5,350	488	26,100	463	105
21	5,330	458	24,400	463	99
22	5,190	453	23,500	463	98
23	5,080	449	22,800	463	97
24	5,100	464	23,700	463	100
25	5,290	468	24,800	463	101

注：1 作付面積（子実用）とは、水稻作付面積から青刈り用の面積を除いた面積である。

2 青刈り用には、子実の生産以前に刈り取られて飼肥料などとして用いられるもの（WCS用稲、わら専用稲等を含む。）のほか、飼料用米、バイオ燃料用米を含んでいる。

この農林水産統計は、中国四国農政局ホームページでご覧いただけます。

<http://www.maff.go.jp/chushi/nousei/tokushima/>

◎ 水稻調査結果の主な利活用

- ・ 主要食糧の需給及び価格の安定に関する法律（平成6年法律第113号）に基づき毎年定めることとされている「米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針」及び米穀の需給見通しのための資料
- ・ 食料・農業・農村基本計画における生産数量目標の策定及び達成状況の検証のための資料
- ・ 農業災害補償法（昭和22年法律第185号）に基づく農作物共済事業における共済基準収穫量算定のための資料

【 解 説 】

1 早期栽培

- (1) 田植期は、育苗期間の天候に恵まれ苗の生育が順調であったことから、最盛期は4月18日となり「平年並み」となった。
- (2) 出穂期は、7月上旬の曇雨天で遅れ気味であったものの、7月中旬に気温・日照時間が平年を上回ったことにより最盛期は7月17日となり、「平年並み」となった。
- (3) 穂数は、4月の気温が平年を下回ったものの、その後の天候に恵まれたことから「やや多い」となった。
- (4) 全もみ数は、梅雨入りしてからの天候不順により日照時間が平年を下回り、1穂当たりもみ数が「やや少ない」となったことから、全もみ数は「平年並み」となった。
- (5) 登熟は、8月以降、台風第11・12号の影響や気温、気温日較差、日照時間ともに平年を下回って推移していることから「やや不良」が見込まれる。

なお、8月15日現在の刈取済み面積割合は台風第11・12号や天候不順の影響を受け4%で、平年に比べ6ポイント低くなっている。

以上のことから、早期栽培の10a当たり予想収量は452kg（作況指数98）が見込まれる。

表2 早期栽培の作柄概況

区 分	田 植 期			出 穂 期			穂 数 の 多 少	一も 穂 当 た り 少	全 も み 多 数 の 少	登 熟 の 良 否	刈 取 済 み 面 積 割 合	
	最 盛 期	最盛期の遅速		最 盛 期	最盛期の遅速						当 年 値	対 平 年 差
		平 年 比 較	前 年 比 較		平 年 比 較	前 年 比 較						
県 計	4 18	並み	並み	7 17	並み	1日遅	やや多い	やや少ない	平年並み	やや不良	4	△ 6
北 部	4 26	並み	並み	7 19	並み	2日遅	平年並み	平年並み	やや多い	やや不良	0	△ 2
南 部	4 15	並み	並み	7 16	並み	1日遅	やや多い	やや少ない	平年並み	やや不良	6	△ 7

注：1 刈取済み面積割合の対平年差欄の「△」は、平年より少ないことを示す。

2 本表の「穂数」、「1穂当たりもみ数」、「全もみ数」の多少及び登熟の良否に用いた表示区分は、「統計表の見方」（P7）を参照。

2 普通栽培

(1) 田植期は、苗の生育が順調であったことから田植えも概ね順調に進み、最盛期が5月22日となり、「平年並み」となった。

(2) 出穂期は、7月中下旬の気象が高温・多照となったため7月31日となり、平年に比べ1日早くなった。

なお、8月15日現在の出穂済み面積割合は82%となっている。

(3) 生育については、6月上旬から7月上旬まで梅雨の影響により日照時間は平年をやや下回ったものの気温が平年を上回ったこともあり、茎数は「平年並み」となった。

以上のことから、普通栽培の生育は「平年並み」で推移している。

表3 普通栽培の生育状況

区分	田植期			出穂期			生育の良否	草丈の長短	茎数の多少	
	最盛期	最盛期の遅速		最盛期	最盛期の遅速					出穂面積割合
		平年比較	前年比較		平年比較	前年比較				
	月日	日	日	月日	日	日	%	(平年比較)		
県計	5 22	並み	並み	7 31	1日早	1日遅	82	平年並み	やや長い	平年並み
北部	5 23	並み	並み	7 31	1日早	1日遅	82	平年並み	やや長い	平年並み
南部	5 14	並み	1日早	8 1	2日早	並み	84	平年並み	平年並み	平年並み

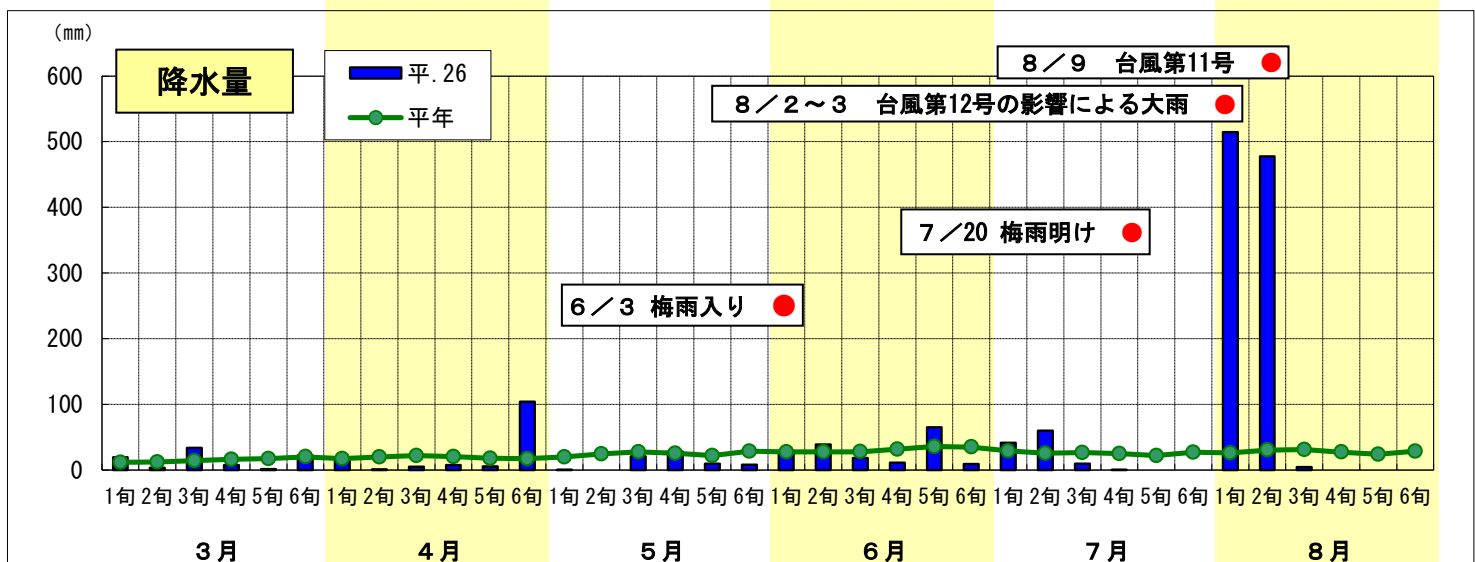
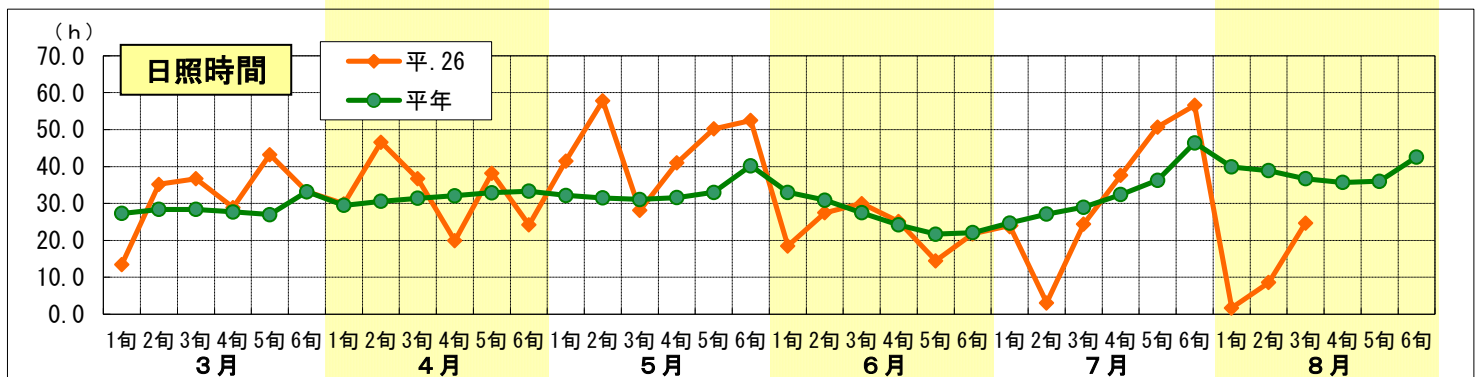
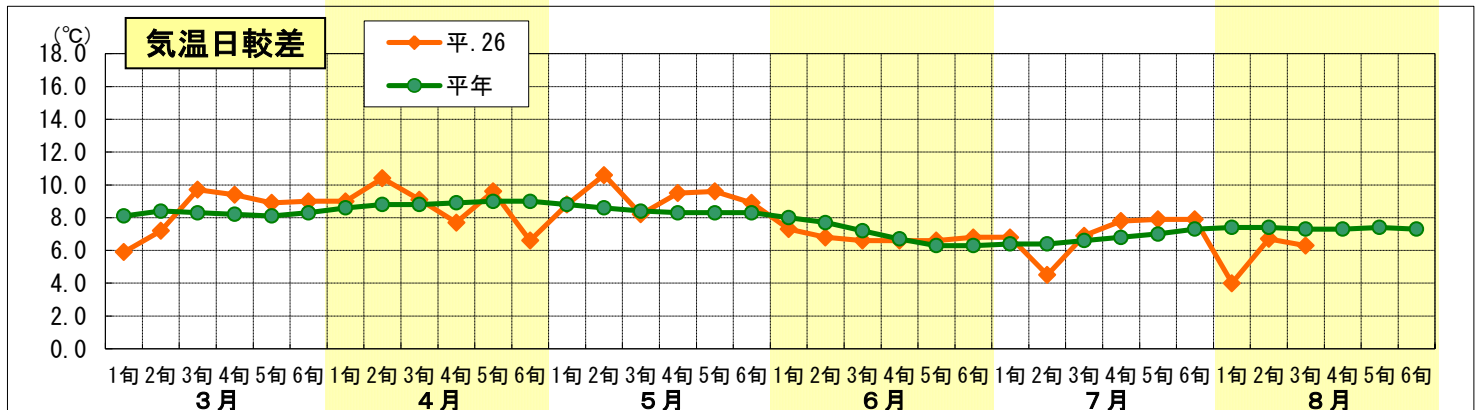
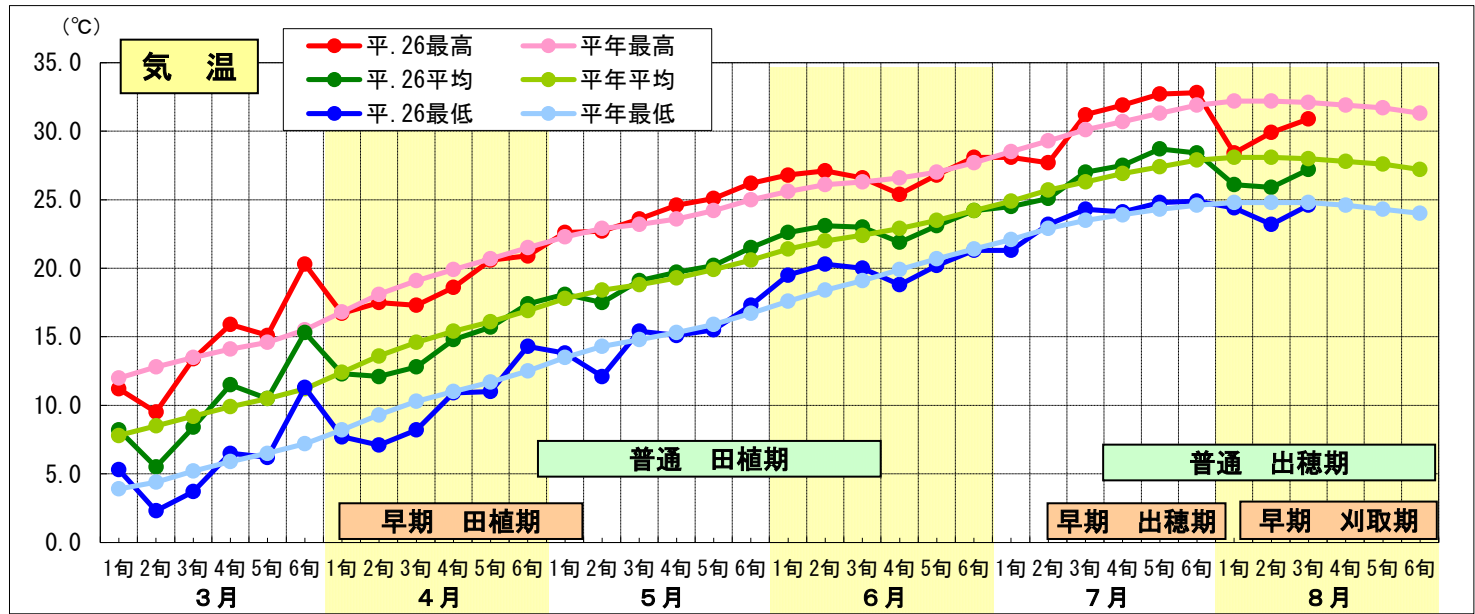
注： 本表の「草丈の長短」、「茎数の多少」に用いた表示区分は、「統計表の見方」(P7)を参照。



収穫を迎えた水稻（平成26年8月 阿南市）

【平成26年 稲作期間の気象経過】

資料：気象庁
観測地点：徳島



【 調査の概要 】

1 調査の目的

本調査は、作物統計調査の水稲調査の中の作柄概況調査として実施し、水稲の生育・作柄状況を明らかにすることにより、生産対策、需給調整、技術指導等の農政推進のための資料とすることを目的としている。

2 調査の区分

調査は、早期栽培、普通栽培ごとに、県内を北部、南部に区分して実施している。

北部：徳島市、鳴門市、小松島市、吉野川市、阿波市、美馬市、三好市、勝浦町、上勝町、佐那河内村、石井町、神山町、松茂町、北島町、藍住町、板野町、上板町、つるぎ町、東みよし町

南部：阿南市、那賀町、牟岐町、美波町、海陽町



3 調査対象数

作況標本筆調査：150筆 作況基準筆調査：6筆 巡回・見積り：24市町村

4 調査事項

は種期の遅速、田植期の遅速、活着の良否、草丈の長短、茎数の多少、穂数の多少、もみ数の多少等の生育状況、登熟状況、被害状況及び耕種状況。

5 調査期日

8月15日現在で水稲の生育・作柄概況を調査した。

6 調査方法

調査は、作況標本筆、作況基準筆に対する実測調査及び作況基準筆調査結果に基づく巡回・見積りにより行った。

7 集計方法

調査事項について、作況標本筆調査結果を集計し、作況基準筆調査結果に基づく巡回・見積りにより補完して取りまとめている。

8 用語の解説

(1) 作況指数

10a当たり平年収量に対する、10a当たり予想収量の比率である。

(2) 平年収量

水稻の栽培を開始する以前に、その年の気象の推移や被害の発生状況を平年並みとみなし、最近の栽培技術の進歩の度合や作付変動等を考慮し、実収量のすう勢をもとに作成したその年に予想される10a当たり収量をいう。

(3) 田植期及び出穂期の最盛期

田植期及び出穂期の最盛期は、田植え及び出穂済面積割合が50%に達した期日である。

(4) 早期栽培

台風の影響を受けやすい時期に出穂期（しゅっすいき）となることを回避する等から、概ね8月中旬頃までに収穫する目的で作付けする栽培方法である。

(5) 生育の良否

草丈の長短、茎数の多少等の計測結果、生育の遅速、被害の発生状況及び一部のほ場における計測可能な穂数、もみ数等の計測結果等を総合して、8月15日現在における稲体の生育状態を調査したものである。

(6) 穂 数

単位面積当たりに出穂した全ての穂の数である。収量決定に当たって重要な要素の一つである。

(7) 全もみ数

単位面積当たりの全てのもみの数である。収量決定に当たって極めて重要な要素である。

(8) 登 熟

開花、受精したのち、実が肥大し熟れていくことを登熟といい、生育条件や気象条件、病害虫などの影響を受ける。

9 利用上の注意

本調査における作柄概況（8月15日現在）は、その後の気象が平年並みに推移するものとして作柄予測を行った。したがって、今後の気象条件により作柄は変動することがある。

なお、生育状況は、草丈の長短、茎数の多少等の計測結果、生育の遅速、被害の発生状況及び一部のほ場における計測可能な穂数、もみ数等の計測結果等を総合して、8月15日現在における稲体の生育状態を調査したもので、作柄を予測したものではない。

【 統計表の見方 】

1 表中で用いた表示区分は、各指標の平年値に対する比率を次のとおりの区分で表したものである。

多 少 (良 否) (長 短)	少 ない (不 良) (短 い)	やや少ない (やや不良) (やや短い)	平 年 並 み	やや多い (やや良) (やや長い)	多 い (良) (長 い)
対平年比	94%以下	98～95%	101～99%	105～102%	106%以上

2 表中の統計数値については、下記の方法によって四捨五入している。

原 数		5 桁 (1 万)	4 桁 (1, 000)	3 桁以下 (100)
四捨五入する桁数 (下から)		2 桁	1 桁	四捨五入 しない
例	四捨五入する前 (原数)	12, 345	1, 234	123
	四捨五入した後 (統計数値)	12, 300	1, 230	123

～この農林水産統計に関するお問い合わせはこちらへ～

中国四国農政局徳島地域センター

農政推進グループ 総括農政情報官 (生産流通消費統計担当)

Tel : 088-625-6990 (内線351) Fax : 088-654-1383



この農林水産統計は、中国四国農政局ホームページでご覧いただけます。

<http://www.maff.go.jp/chushi/nousei/tokushima/>



平成27年2月1日現在で、2015年農林業センサスを実施します。

○農林業経営体調査 (平成26年12月中旬～平成27年2月末)

○農山村地域調査 (平成27年4～6月末)

円滑な調査の実施に向けて、ご協力をお願いします。

農林業センサスホームページURL : <http://www.maff.go.jp/j/tokei/census/afc>